

藤原忍調査レポート

2024年10月

レポート開始のご挨拶

村民の皆様、この度の大桑村議会議員補欠選挙にて無投票ながらも議員となりました**藤原忍**です。

告示日翌日に新聞折込で配布させていただきました**候補者ビラ**でお読み頂いた通り、今後私なりに村の状況を調査し、その結果を村民の皆様にお伝えしたいと思います。



このレポートを始めるのには理由があります。

村が発行した「**第6次大桑村総合計画**」を初めて開いた時、行政が村民の皆様からの回答を集計した「**今後の取り組みの重要度**」と、15年後に私たちが直面するであろう課題との間の**橋渡しが必要**かもしれないと感じたからです。

村が発行した別の資料「**第2期大桑村人口ビジョン まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和2年3月**」によると、約15年後の2040年には村の人口は**2,314人**になると予測されています。今年2024年時点の人口が**3,262人**ですから、**およそ4人に1人が居なくなる**計算です。

4人に1人が居なくなったら村は なるのでしょうか。それだけ村が小さくなってしまったら**現在と同じ予算規模で村を運営する事は困難**になるかもしれません。多くの皆様が感じているこの課題こそが**今後の取り組み**との間でしっかりとした橋渡しが必要だと思いました。

私の場合、財布の残りが少なくなればお金の使い方に優先順位をつけて、我慢できるものは我慢しながらピンチを乗り切るための方法を考えます。そして、まずは「今何がどうなっているのかを知る」ことから始めます。

このような理由から私の「**藤原忍調査レポート**」をスタートさせて頂く次第です。私の報告が的外れな事もあるかもしれませんが、皆様と一緒に新しいテーマで会話させて頂くきっかけになれば、それだけでも私的には一歩前進です。

皆様、どうかよろしく申し上げます。



第1回目は生活必須インフラのひとつである村の下水道について報告します。



大桑村には3つの下水処理施設（浄化センター）があります。下水サービスを利用している各家庭の下水はいずれかの浄化センターに送られています。下水は高低落差で流すので、その仕組みは簡単な様でかなり複雑です。本管よりも低いところの住宅排水はマンホールの中継ポンプで本管まで吸い上げています。この中継ポンプが停止するとマンホールから汚水が溢れる危険があります。下水管延長は**48km**あり、長期にわたって継続的な点検・保守が必須で規模縮小が困難な仕組みです。詳しいレポートはブログでご覧いただけます。

人口が減っても下水施設全体の維持管理は基本的に変わりません

浄化センター

下水は高低落差で流れます。

高低落差

下水管総延長**48km**

下水

本管より低地住宅の下水はマンホール内中継ポンプによって本管まで吸い上げています。

マンホール

マンホール

中継ポンプ制御盤

マンホール内の中継ポンプ
ポンプ本体は水の中に見えていません。

浄化センターは対象となる下水収集地域の中で最も低い土地に設置されます。
微生物による有機物分解により下水を処理し、汚泥と上澄み液を分離します。上澄み液は消毒処理後に木曽川に排水し、汚泥は木曽広域連合環境センターの処理施設で処理します。

須原浄化センターに接続する下水管路の場合、**23**基の中継ポンプが設置されており、24時間365日稼働しています。